

きらめく
まちビット

✕
M. Kouchi

昨年より本市に移住し、現在も本市で生活を送られているエンターテイナーのミッキー・カーチスさん。御年85歳のミッキーさんが、なぜ名寄に移住したのかや今後の展望などについてインタビューしました。

まだまだいろんなことやりたいんだよね！

名寄の第一印象は？

2019年の冬にディナーショーで来たのが初めての名寄だったんだけど、寒かったね。移住して初めての冬も寒くて家から出れなかったよ。でも空が広いし、冬は雪で綺麗な真っ白で、景色は素晴らしいね。ペットの犬も喜んでたよ。

移住しようと思ったきっかけは？

名寄に来る前はタイに6年ほど暮らしていたんだけど、日本に戻って来るときに、犬と暮らせるって場所が全然ないんだよね。犬と過ごせて、絵が描けて、のんびり自由に暮らせる場所となったら、名寄だったんだよ。昨年の夏の終わりから名寄に移住したから、今は初めての名寄の夏を満喫しているよ。

名寄で暮らしてみてどうですか？

何でも食べるものが美味しいよね。自宅の畑でアスパラガスがたくさん採れたし、これからはとうもろこしを収穫する予定だよ。とうもろこし、甘くて美味しいよね。

名寄の美味しい食材で元気に過ごしてほしいと思います！

あと5年若ければね、もっといろんなことやるんだけど、さすがにこれ以上新しいことはなかなか…。だって、何か新しい技術を身につけるためには最低5年かかるでしょ？いまから始めたら俺90歳になっちゃうよ(笑)。

普段の一日の過ごし方は？

昔はね夜型の生活だったんだけど、今は夜になると犬が寝よう寝ようって言うてるもんだから、犬に合わせた生活リズムになってるかな。

朝起きたらYouTubeを見て、午前中は絵を描いてって感じかな。午後からは日本ハムファイターズの試合をテレビで見て。北海道に住んでる以上は、やっぱりファイターズを応援しちゃうね。

それに野球観戦でリハビリしてるんだよ。野球って9イニングあるじゃない。1イニングごと家の中を歩き回ってさ、そしたら1日1000歩くらい歩くんだよ。だから試合が休みの日は歩くきつかけがなくて困るんだ(笑)。

リハビリについて？

実は、今年の初めに脳内出血で倒れて。検査したら、脳腫瘍かもしれないっていうんで、でも調べたら良性だった。検査のときに開けた穴が頭に残っちゃったよ(笑)。でも今は元気、まあ後遺症があるからリハビリやってますよ。

これからの活動について！

今度、名寄で映画を撮影するんだよ。「運命屋」っていうね。短編なんだけど全編通して名寄で撮影するの。完成したらエンレイホールで映画祭なんてできたらいいよね。

市民の皆さまに

ぜひひとこと！
映画作りはいろいろな形で関わる人がいますし、名寄の代表作の映画になるよう、ぜひ協力していただければ嬉しいです。よろしくお願います。

映画「運命屋」の詳細は次のページをチェック！



▲ミッキーさんのツイッターアカウント。ミッキーさんの最新情報はこちらから！

▶ミッキーさんは80歳から画家として活動をはじめ、昨年は東京で絵画展を開催しました。



▶自宅では「インタビュ」を受けてくださったミッキーさん。名寄市観光キャラクター「フター」なよろこのぬいぐるみをリビングに飾られています。



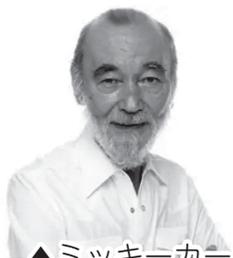
ミッキー・カーチス主演 短編映画「運命屋」 今年秋、名寄市オールロケにて撮影開始！

女優・^{ひろやま}広山詞葉が主宰する映像制作団体「Project K」が、ミッキー・カーチス主演の短編映画制作を開始、広大な大地・名寄の美しい景観を、切なくもあたたかい物語とともにおさめます。年齢を重ね、人生において1番大切なものとは何かを自身に問う元ミュージシャンの老人をミッキー・カーチスが演じ、その人生の決断を促す運命屋を^{ひろやま}広山詞葉が演じます。

監督：^{もりた}森田と順平 脚本：^{もりた}森田と順平 プロデューサー：^{ひろやま}広山詞葉
出演：ミッキー・カーチス 広山詞葉 ほか

【あらすじ】

人の寿命は運命によって全て決められている。
しかし、運命屋と呼ばれる者によってある取引が行われていた。
それは大切な人との思い出を忘れることと引き換えに運命を変えることができるというもの。
人は記憶を失ってでも生きたいと思うのか。
あるいは命と引き換えに記憶を守りたいと思うのか。
様々な人間の決断と取引を重ねてきた運命屋の女性が出会ったのは
とある美しい町に暮らす、寿命を迎える老いた男。
果たしてその老人が選ぶ運命とは…？



▲ミッキーカーチス



▲広山詞葉



▲森田と順平

Profile

ミッキー・カーチス (Mickey Curtis)

昭和13年(1938年)7月生まれ、東京都港区赤坂出身。第二次世界大戦中は家族と上海で過ごし、戦後は再び家族と東京に。親や友人などの影響で12、13歳ころから音楽に傾倒し、当時日本の占領に当たった連合軍兵士のキャンプ回りや、朝鮮戦争に出征する国連軍兵士の慰問などの活動を通じて、音楽活動が認められロカビリー歌手として高い人気を誇る。歌手以外の活動に、音楽プロデューサーとして「ガロ」や「キャロル」を輩出した他、俳優として100本以上の作品に出演。さらにはタレント業、レーサー、落語家などさまざまな顔を持つ。現在は奥さまと犬2匹とで悠々自適な名寄ライフを過ごしている。最近では画家としても活動中。

きらめくまちビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。